

# SDPFポータル<sup>o</sup>の機能改善内容について



2022年3月22日  
NTTコミュニケーションズ株式会社

# SDPFポータル機能改善項目

項番	分類	改善項目
①	セキュリティ機能改善	<ul style="list-style-type: none"><li>・ユーザー情報画面にてAPI利用可否 設定項目を追加いたしました。</li><li>・契約代表ユーザーでもAPI利用が可能になりました。</li></ul>
②	SDPFポータル画面の改善	<p>以下の改善を実施いたしました。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. Smart Data Platform Knowledge Center サイトに遷移するメニュー選択時の別タブ表示</li><li>2. ユーザー一覧画面へのユーザーIDの表示追加</li><li>3. ワークスペース一覧画面へのワークスペースIDの表示追加および検索機能の追加</li><li>4. ご利用地域選択画面へのテナントID追加</li><li>5. 【再販パートナーさま向け】子契約検索条件にテナントIDを追加</li></ol>

# ①セキュリティ機能改善 仕様変更詳細

セキュリティ機能改善の仕様変更詳細（変更前、変更後、効果）について以下の通りとなります。

現在の仕様	変更後の仕様	効果
API利用しないユーザーでもAPI鍵の確認ができてしまう。	API利用可否設定が“API利用不可”のユーザーはユーザープロフィール画面を開いてもAPI鍵の確認が不可となります。	今回の施策によりAPI利用不可のユーザーはAPI鍵・API秘密鍵の流出のリスクが無くなります。
ユーザがAPI利用しているかどうかはIAMグループ・ロールの設定によって行われ、API利用可否設定が判別がつかない。	API利用可否設定が“API利用不可”となっていればAPIを利用していないユーザーと判断できるようになります。	セキュリティインシデントが発生した際など、API利用ユーザーの抽出が容易となり、ユーザー管理がより便利になります。
契約代表ユーザーがAPIを利用する事ができない。	契約代表ユーザーがデフォルトIAMロール固定ではなくなるため、APIを利用できるようになります。	契約代表ユーザーの制約事項が解消され、より便利にご利用いただけます。

## 制約事項

IAMグループにて操作制限を行っているユーザーのステータスが、実際にはAPIを利用していなくても“API利用可能”となります。例えば SDPFポータル操作と一部メニュー利用のみに操作を限定したい場合でも、ユーザーのステータスを“API利用可能”設定に変更した上で IAMグループ/IAMロールを記述・設定する必要があります。

# ①セキュリティ機能改善 追加された設定項目とAPIについて

## GUI 画面イメージ

SDPFポータルของผู้ใช้ข้อมูล画面において以下のような設定項目を追加しました。  
 “API利用可否を変更”のボタンを押下し状態の変更が可能となります。



## API利用可否設定 API

以下のような API利用可否設定を行うAPIを新規追加しました。

**Method:** PUT

**APIPath:** {api\_endpoint}/api/v2/users/{user\_id}/api-availability

```
{
  "api_availability": true
}
```

# ①セキュリティ機能改善 既存APIへの仕様適用（1/2）

下記の既存APIについても今回の変更を適用いたしました。v1.0、v2バージョンともに同じ変更となります。

## ユーザ情報取得 API

### 変更内容

リクエスト対象ユーザがAPI利用不可の場合、レスポンスから「keystone\_name」を削除しました。  
レスポンスに新規に「api\_availability」（リクエスト対象ユーザのAPI利用可否フラグ）を追加しました。

**Method:** GET

**API Path:** {api\_endpoint}/api/v2/users/{user id} ※v1.0 も同様です。

## ユーザ作成 API

### 変更内容

新規作成ユーザはデフォルトでAPI利用不可のため、レスポンスから「keystone\_name」を削除しました。

**Method:** POST

**API Path:** {api\_endpoint}/api/v2/users/ ※v1.0 も同様です。

# ①セキュリティ機能改善 既存APIへの仕様適用（2/2）

下記の既存APIについても今回の変更を適用いたしました。v1.0、v2バージョンともに同じ変更となります。

## ユーザー一覧取得 API

### 変更内容

レスポンスに新規に「api\_availability」（リクエスト対象ユーザのAPI利用可否フラグ）を追加しました。

**Method:** GET

**API Path:** {api\_endpoint}/api/v2/users/ ※v1.0 も同様です。

## API 鍵更新 API

### 変更内容

リクエスト対象ユーザがAPI利用不可の場合、APIリクエストがエラーとなるよう修正しました。

**Method:** PUT

**API Path:** {api\_endpoint}/api/v2/keys/{user\_id}/ ※v1.0 も同様です。

## IAM グループ・ユーザ紐付けAPI

### 変更内容

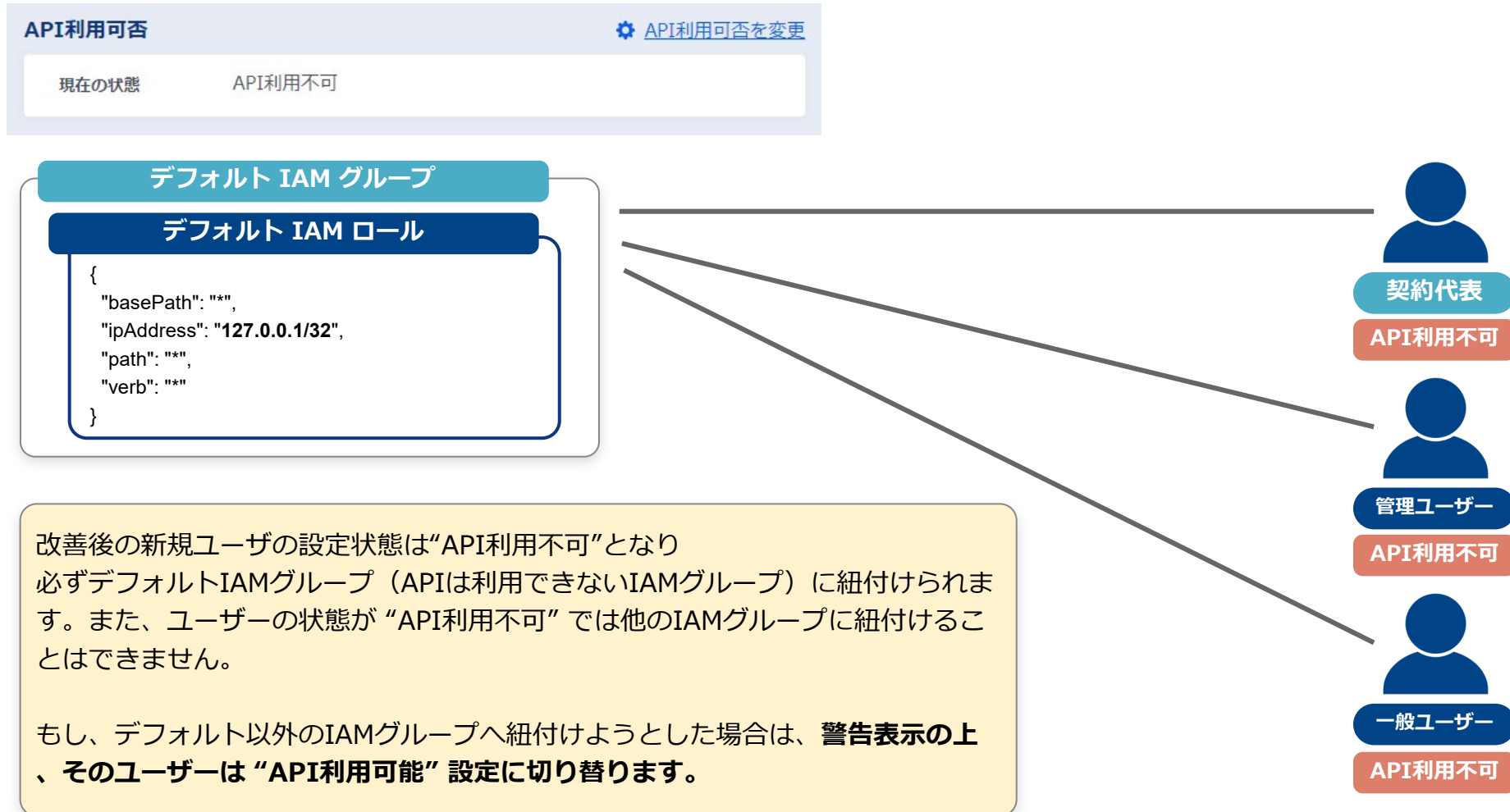
レスポンスに新規に「api\_availability」（リクエスト対象ユーザのAPI利用可否フラグ）を追加しました。

**Method:** PUT

**API Path:** {api\_endpoint}/api/v2/iam/groups/{iam\_group\_id}/users/{user\_id}/ ※v1.0 も同様です。

# ①セキュリティ機能改善 新規契約・ユーザー作成時の状態について

## 新規契約・ユーザー作成時（現在の状態：API利用不可）



# ①セキュリティ機能改善 API利用可否設定を変更した状態について

契約代表ユーザー、管理ユーザー、一般ユーザーを 現在の状態：“API利用可能” に変更した状態

**デフォルト IAM グループ (API利用不可)**  
**デフォルト IAM ロール (API利用不可)**

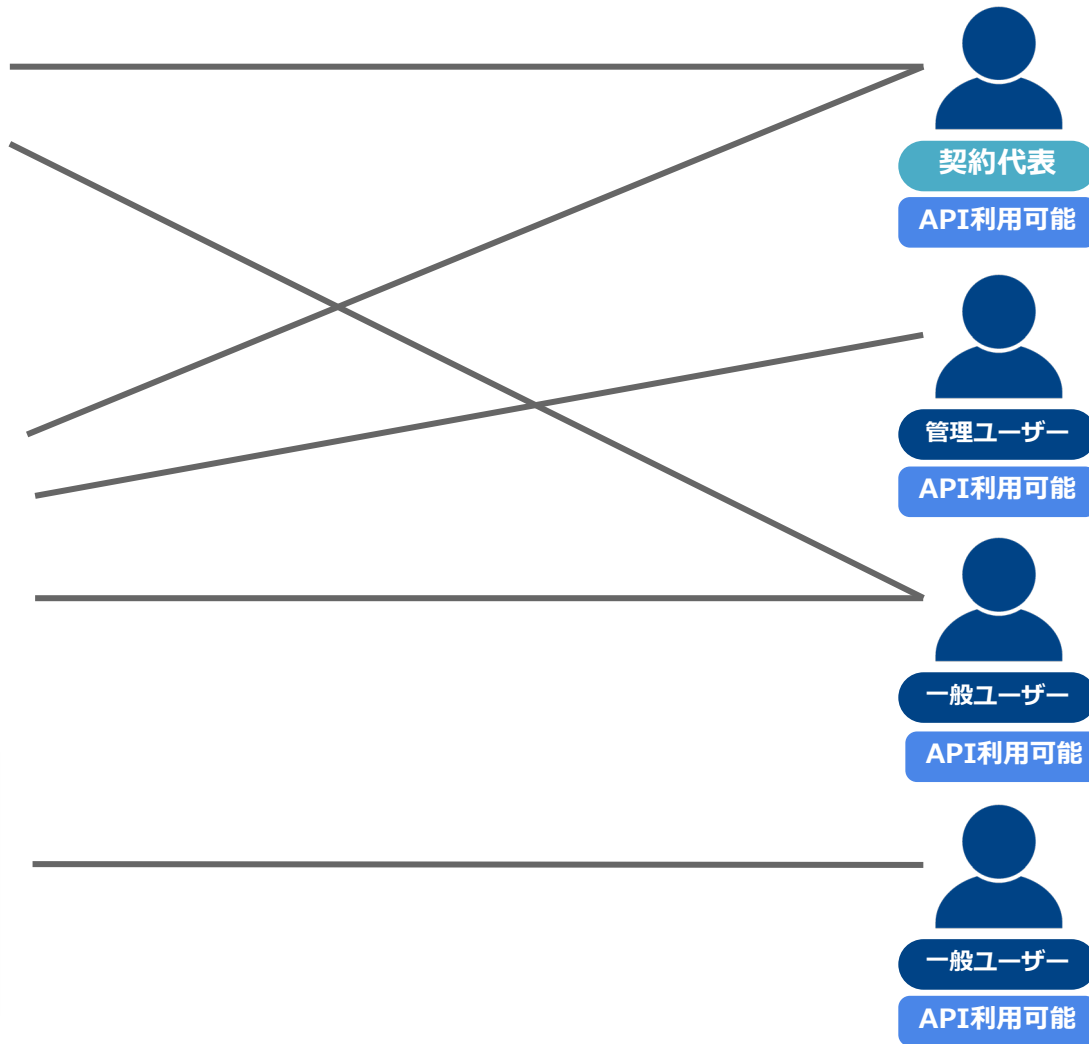
```
{  
  "basePath": "**",  
  "ipAddress": "127.0.0.1/32",  
  "path": "**",  
  "verb": "**"  
}
```

**IAM グループ (ユーザ作成)**  
**IAM ロール (ユーザ作成)**

```
{  
  "basePath": "ecl-sss",  
  "ipAddress": "**",  
  "path": "/api/v2/workspaces",  
  "verb": "**"  
}
```

**IAM グループ (ユーザ作成,GUI操作制御用)**  
**IAM ロール (ユーザ作成,GUI操作制御用)**

```
{  
  "basePath": "ecl-sss",  
  "ipAddress": "127.0.0.1/32",  
  "path": "/api/v2/workspaces",  
  "verb": "**"  
}
```



契約代表ユーザーはデフォルト IAMグループは必須。  
API利用可能設定の場合、デフォルト以外の IAMグループへの追加紐付けも可能とする

API利用可能設定の場合、他の IAMグループに自由に設定可能  
API利用不可設定の状態からデフォルト以外の他の IAMグループに紐づけた時点でAPI利用可能設定に切り替わる

GUIだけしか利用しないユーザーであっても、IAMによる操作制限をしたい場合にはAPI利用可能に設定する必要あり



# ①セキュリティ機能改善 FAQ

Q：既存契約ユーザーのAPI利用可否設定の表示はどうか？

A：API利用有無が不明の為、一律で“API利用可能”設定となります。

現在のAPI利用の有無にかかわらず、既存契約ユーザーのご利用状態に影響はございません。

Q：API利用可否設定を“API利用不可”状態から“API利用可能”に変更したい場合、どの様な作業が必要か？

A：“API利用可否を変更”ボタンを押下し変更する、若しくは“API利用不可”設定の状態から、デフォルト以外の他のIAMグループに紐付けた時点でAPI利用可能設定に切り替わります。

Q：API利用可否設定を“API利用可能”状態から“API利用不可”に変更したい場合、どの様な作業が必要か？

A：変更したいユーザーの紐づくIAMグループをデフォルトIAMグループのみ、若しくはIAMグループ設定なしに変更後、API利用可否設定を編集し、“API利用不可”に設定することが可能となります。

Q：API利用可否設定が“API利用不可”状態は必ずデフォルトIAMグループに紐づくのか？

A：デフォルトIAMグループのみに紐づく、若しくはどのIAMグループにも紐づかない状態のどちらかとなります。

例外として契約代表ユーザーについては、“API利用可能”、“API利用不可”に関わらずデフォルトIAMグループへの紐付けが必須となります。

## ②SDPFポータル画面の改善

### 概要

2021年5月のバージョンアップにて大幅な画面変更を実施した際に、お客様から一部画面について使いづらいと要望を頂きました。頂いたご要望と全体的なユーザビリティ向上のため、SDPFポータル各種画面の改善を実施いたしました。

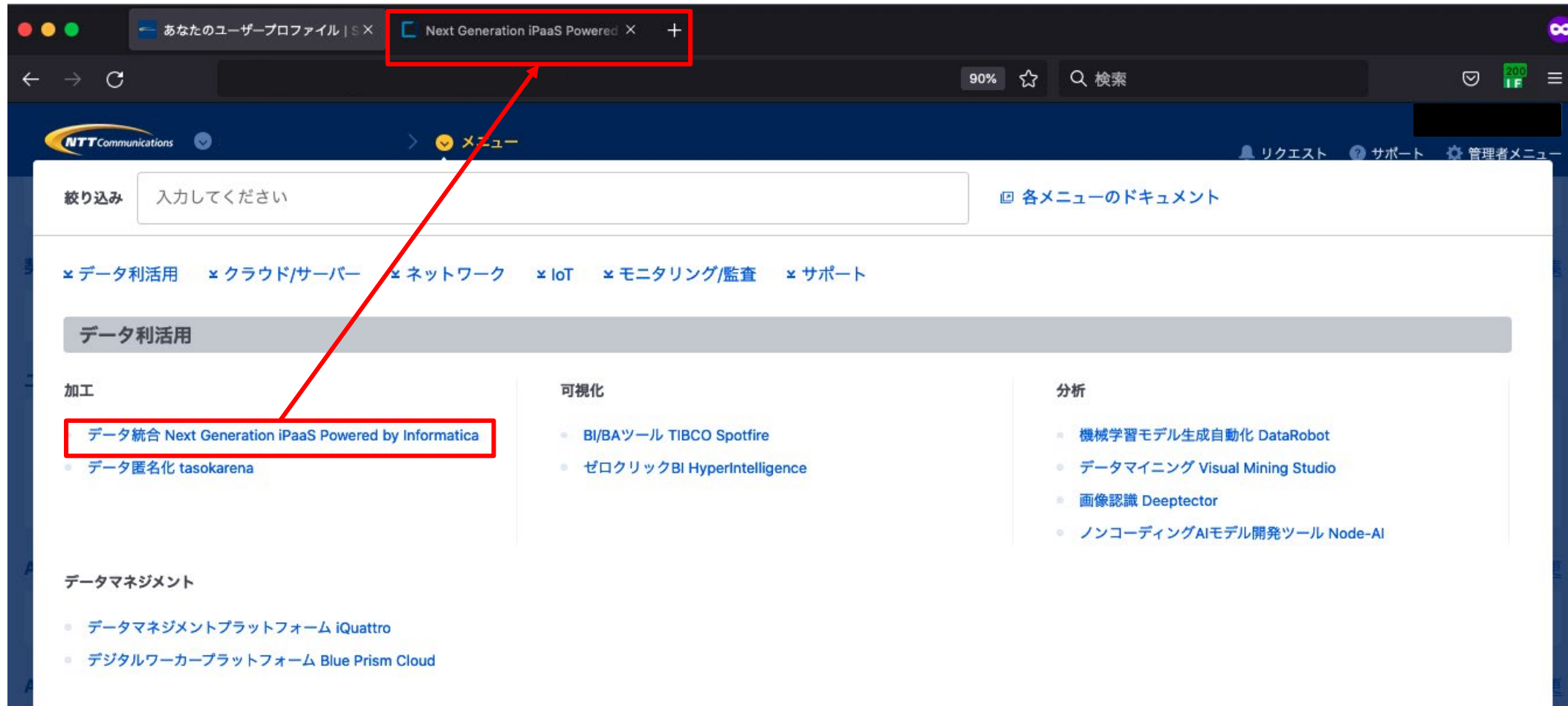
### 変更内容

1. Smart Data Platform Knowledge Center サイトに遷移するメニュー選択時の別タブ表示
2. ユーザー情報一覧画面へのユーザIDの表示追加
3. ワークスペース一覧画面へのワークスペースIDの表示追加および検索機能の追加
4. ご利用地域選択画面へのテナントID追加
5. 【再販パートナーさま向け】子契約検索条件にテナントIDを追加

## ②SDPFポータル画面の改善

### 1. Smart Data Platform Knowledge Center サイトに遷移するメニュー選択時の別タブ表示

- Smart Data Platform Knowledge Centerへのリンクが貼られているメニューをメガプルダウンから選択すると別タブで開くように変更しました。



# ②SDPFポータル画面の改善

## 2. ユーザー情報一覧画面へのユーザIDの表示追加

- ユーザー情報一覧画面において、ユーザIDが表示されるようになります。

The screenshot shows the 'ユーザー情報一覧' (User Information List) page in the SDPF portal. The page title is 'ユーザー情報一覧' and it includes a sub-header '管理ユーザーと一般ユーザーを一覧で確認できます。' (You can check management users and general users in a list). There are two tabs: '管理ユーザー' (Management Users) and '一般ユーザー' (General Users). The '管理ユーザー' section contains a table with columns for 'ログインID', 'ユーザーID', 'ユーザー管理', 'ワークスペース管理', '料金情報参照', 'API権限管理', and 'ユーザー種別変更'. The 'ユーザーID' column is highlighted with a red box. The table lists two management users: 'testcontract\_0003' (with roles 'あなた' and '契約代表') and 'testcontract\_0003\_child\_02'. The '一般ユーザー' section has a 'ユーザー新規作成' (Create New User) button and a table with columns for 'ログインID' and 'ユーザーID', also with the 'ユーザーID' column highlighted in red. A 'test01' user is listed in the general users table.

ログインID	ユーザーID	ユーザー管理	ワークスペース管理	料金情報参照	API権限管理	ユーザー種別変更
testcontract_0003 <span>あなた</span> <span>契約代表</span>	ecid1000000883	✓	✓	✓	✓	✓ <a href="#">詳細</a>
testcontract_0003_child_02	ecid1000001303	✓	✓	✓	✓	✓ <a href="#">詳細</a>

ログインID	ユーザーID
test01	ecid1000001923

## ②SDPFポータル画面の改善

### 3. ワークスペース一覧画面へのワークスペースIDの表示追加、および検索機能の追加

- ワークスペース一覧画面において、ワークスペースIDの表示を追加しました。
- テナントID/リージョン名/ワークスペース名/ワークスペースID でワークスペースを検索することが可能となります。

The screenshot shows the 'ワークスペース一覧' (Workspace Overview) page. A search filter dropdown is open, showing options: '検索キーを選択' (Select search key), 'テナントID' (Tenant ID), 'リージョン名' (Region name), 'ワークスペース名' (Workspace name), and 'ワークスペースID' (Workspace ID). The 'ワークスペースID' option is highlighted. Below the search filters, a table lists workspace information. The 'ワークスペースID' column for the first entry is highlighted with a red box.

ワークスペース名	ワークスペースID	説明	
tenant01	ws0000000356	updated tenant	<a href="#">選択</a>

# ②SDPFポータル画面の改善

## 4. ご利用地域線選択画面へのテナントID追加

- ご利用地域選択画面（メニュー選択後のリージョン選択画面）において、  
 選択中のワークスペース内に、既にそのリージョンで作成済のテナントが存在する場合、テナントIDが表示されます。

**ご利用地域選択**

指定したメニューを利用する地域を選択してください。

指定したメニュー | IaaS/PaaS > ソフトウェア > Anonymously Processed Information creation software

リージョン	利用するテナントID	
jp2リージョン (日本)	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	<a href="#">選択</a>
jp4リージョン (日本)	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	<a href="#">選択</a>
jp5リージョン (日本)	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	<a href="#">選択</a>
us1リージョン (米国)	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	<a href="#">選択</a>
uk1リージョン (英国)	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	<a href="#">選択</a>
de1リージョン (ドイツ)	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	<a href="#">選択</a>
fr1リージョン (フランス)	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	<a href="#">選択</a>
sg1リージョン (シンガポール)	- ※選択すると作成されます	<a href="#">選択</a>
hk1リージョン (香港)	-	<a href="#">選択</a>

# ②SDPFポータル画面の改善

## 5. 【再販パートナーさま向け】子契約検索条件にテナントIDを追加

- 再販パートナーさま向けの子契約一覧画面において、配下の子契約の検索条件にテナントIDを追加しました。該当テナントに紐づくワークスペースを持つ契約が検索可能となります。

**子契約一覧**

配下の契約を一覧できます。  
最大100件まで表示します。  
各契約のワークスペース・ユーザー・料金についての情報は契約IDを押下してください。

**検索条件**

絞り込み検索  値を入力（部分一致検索）

⊕ 詳細な検索

**子契約**

契約新規作成

契約ID  ステータス お客様番号 利用開始日時 利用終了日時

⊕ econ1000001196  有効 econ1000001196 2021-10-12 15:01:04 UTC 利用中

⊕ econ1000001188  有効 econ1000001188 2021-10-12 15:00:20 UTC 利用中

[契約グループ](#) [明細一括ダウンロード](#)

